



題字 井原田 親

No. 955

2021/8/15

日中友好新聞

発行所
日本中国友好協会
〒111-0953
東京都台東区浅草橋2-2-3
浅草橋5-5 5階
電話 03(5839)2149(代)
FAX 03(5839)2141
http://www.j-c-fc.org.jp
E-mail:okakayama@taipei-jc.jp
社印 00119-1-21178

日中友好協会
岡山支部
〒705-0034
岡山市北区下伊福
西町1-59 民生会館1F
TEL/FAX 086(256)-8806

日中友好協会
倉敷支部
〒712-8031
倉敷市福江町東部22461-45
TEL/FAX 086(411)-7800

日中友好協会岡山支部ホームページ
http://rizhongyouhao.jinaa.net
メールアドレス
rizhongyouhaoxienuokayama@yahoo.co.jp



日中友好協会岡山支部 総会に参加した感想

支部総会の内容は、前号で真田支部長が紹介しています。今号は、井堀夫妻と谷本さんの感想文を記載します。

私たちは7月18日、日中友好協会岡山支部の総会に参加しました。久しぶりに、岡山支部の皆さんにお会いできてとても嬉しかったです。

二年前、私たちが初めて総会に参加した時、中国高齢帰国者の介護施設を設立したいと申し上げました。そのことはまるで昨日のことのようです。時はあつという間に二年が経ちまして、ヘルパーステーション、居宅介護支援事業所を経て、やつと7月1日に小規模多機能型居宅介護施設のオープンができました。二年間の歩みを思えば、一步一步、皆さんの指導と応援がなければ、実現できなかつたことでした。特に今回の議案にも取り入れてくださって、本当に感無量です…



井堀夫妻

これから、帰国者の皆さんが、最後の生き場所として、本当に日本に帰ってきて良かったと言えるように、一生懸命頑張っていきたいと思います。また来年の総会でみなさんと会うことを楽しみにしています。

井堀風才・紅霞

7月18日、小林先生の紹介で福祉交流プラザ旭東で開かれた日中友好協会岡山支部総会に初めて参加しました。皆さんと色々話したり、聞いたり、懇談をしました。私にはとても勉強になりました。日本での生活が30年以上になります。色々な用事をする時も、あまり日本語がわからない私に、皆さんがとてもやさしく教えてくださり、困った事は一度もありません。これからも参加させていただきたいと思います。宜しくお願います。

谷本有希子



谷本さん

中国語講座 真田

8月7日の土曜日、岡輝公民館で、中国語講座を受講しました。当日は新しい老師である劉老師が体調が悪く(コロナワクチンの後だったそうです)代講にきてくれた劉洋さんでした。

岡山に5年ほど住んでいて、岡大の社会文化科学研究室修士を卒業されていて、現在就職活動中だそうです。

とてもおもしろかったのが、中国の結婚事情で、男性の負担が大変大きく、まず基本的に房(家)、車、存款(貯金)が必要で、その上に工作(仕事)、彩札(結納金)、首飾(宝飾品)も必要だそうです。都会で結婚するのは無理かもしれません。

第10回中国百科検定

第10回中国百科検定は、今年の11月27日(土)に開催されます。

岡山会場は、岡山国際交流センター3階の研修室です。時間は、15時～15時50分です。岡山支部は、総会で「(1)受験対策講座を実施し、20人の受験者を迎える取り組みをします。」(2)若い層(10代～40代)の受験者を増やすために、高校、大学や専門学校への働きかけを継続し、日中友好運動の世代継承にも努めます。」との方針を決定しました。

9月からこの方針に従って取り組みを始めます。



『中国百科検定』は「日中両国の関係改善のためには、まず相手国への理解を深めることが大切」との強い思いから誕生しました。中国語の能力ではなく、中国の歴史・地理・政治経済・文化等、多方面の知識を問う、日本でも極めてユニークな検定試験です。

2014年3月、東京・大阪・福岡の3会場で第1回が開催され、366人が3級(ものしりコース)を受験。第2回は2015年9月に開催され、会場を全国各地(32カ所)に広げ、2級(中国通コース)を新設、受験者は474人まで増えました。

第3回では1級(百科老師コース)を新設し、これで全3コースがそろうとともに、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟が後援に加わりました。さらに、中国国家観光局と中国日本友好協会が春秋航空とともに協賛に入り、成績優秀者に対して招待旅行や往復航空券などの副賞を提供していただくことになりました。これは「草の根運動」としての当検定の意義が認められた結果とも言えます。

岡山十五年戦争資料センターで「戦跡巡り」

青木康嘉

③ 真休寺の近勇碑

昭和18年5月、岡山県全域から集まった、義勇軍近藤中隊243名が渡満した。四平省昌図訓練所に入所した後、満州最北端でソ連との国境の町黒龍江省嫩江(のんこう)訓練所に入所した。渡満後、帰国者5人、脱走者12人、現地死亡者3人、応召入隊者9人、昭和20年時点では222名いた。ところが、昭和20年春文官屯工廠、奉天の同和自動車などに派遣され、残留部隊88名を嫩江訓練所に残した。派遣組は、ほぼ全員が引揚げたのに対し、残留組はソ連軍と戦い、18歳以上はシベリア抑留、死者40人、行方不明・未帰還11人いた。田淵馨氏や神崎五一氏に聞いた話では、近藤中隊長は「国粋主義者の、神主出身者であった。終戦になると部下や隊員をほっぽらかしにして、いち早く引揚げた」という。昭和52年美作市位田の真休寺に引揚げた隊員で慰霊碑を作った。無事帰国した有志相計り国策に殉じた同氏の霊を祭るとともに満蒙開拓青少年義勇軍近藤中隊の業績を永遠に顕彰すべく祈念し、此処に近勇碑を建立す」とある。献花をし、お線香をあげた。

④ 満蒙開拓青少年義勇軍村上中隊杉山勝巳の戦時死亡宣告の墓

昭和19年5月21日、岡山県の旭川東部出身の義勇軍村上中隊215名が渡満した。勃利大訓練所を経て、大茄子訓練所に入植した。約1年、空腹に耐え、野菜を作り、冬は伐採作業があり、屯墾病(ホームシックで鬱になる)、赤痢、発疹チフス、凍傷などで19人が死亡した。昭和20年春、文官屯工廠、満飛工場、大連周水子、造船工場など185名が派遣され、30人が残留となった。村上中隊の死者は51名

を数える。杉山勝巳は奉天満飛工場に派遣された。8月15日以降村上中隊長は中隊を解散して各自生きていけと訓示した。仲間と生きていった隊員もいたが、ひとりぼっちとなった杉山勝巳は10月の寒さと栄養失調で飢え死にする直前に、周慶福・李叶夫妻に救ってもらった。命の恩人である。戦後、義勇軍の友人が引揚げを誘った時も、養父母への命の恩人という意識から断っている。昭和34年岸内閣の下で未帰還者特別措置法で「戦時死亡宣告」が裁判所で審判され、帰国していない中国残留孤児や残留婦人は「戸籍上の死亡者」となった。杉山勝巳の母サダは、「淨忠院清勝隆道居士」と戒名をつけ、お墓を作った。日本赤十字を通じて調べればわかるのに、国から棄民」された。

私たちは、当時の美作市巨勢にある杉山勝巳の墓地(現在の杉山勝巳のお墓は百間川沢田付近にある)に行ったが、お墓は管理されていなく雑草の中に埋もれていた。



次回の新聞発送作業は
8月24日(火)午前10時半から
民主会館2階で行います。
前回お手伝いくださった方です。

飼林田井内 榎
犬小真河竹 稲